

# HOYA株式会社

2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

2024年8月1日

# 将来予測に関する記述

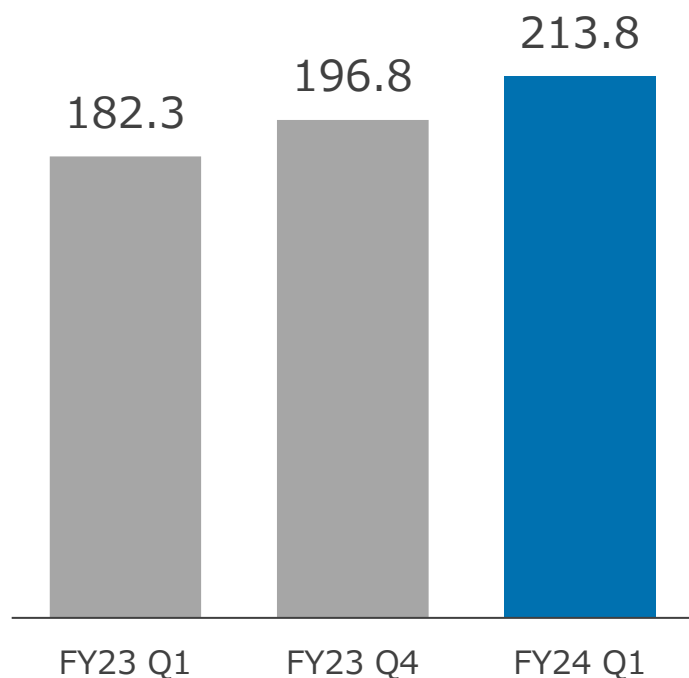
当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

# 01. FY24 Q1の業績

# 連結業績概況

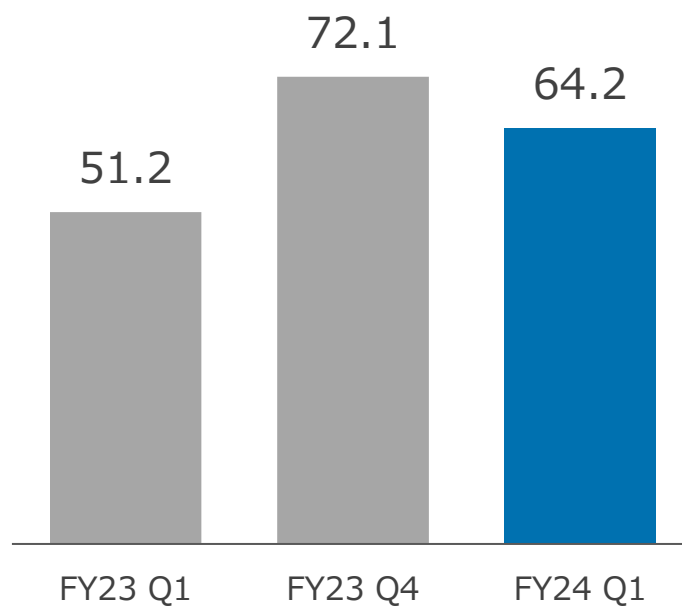
- 前年度に在庫調整の影響を受けていた情報・通信事業の主力製品が復調となり、四半期売上としては初めて2,000億円を超えた。
- 比較的収益性が高い情報・通信事業の売上構成比が増加したことで、大幅増益となった。なお、金融収益47億円と為替差益20億円が、税前利益と通常の営業活動からの利益の主な差異要因となっている。

売上収益 (十億円)



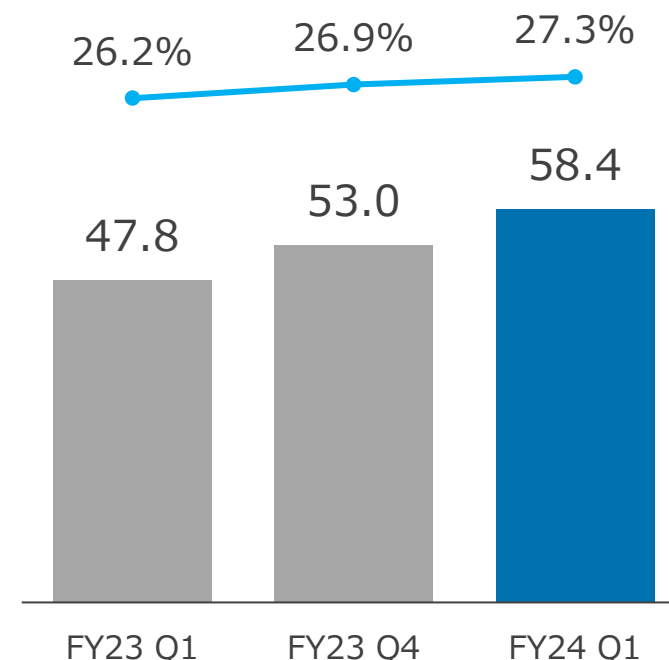
YoY +17% (CC\* +9%)

税前利益 (十億円)



YoY +26% (CC +19%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率

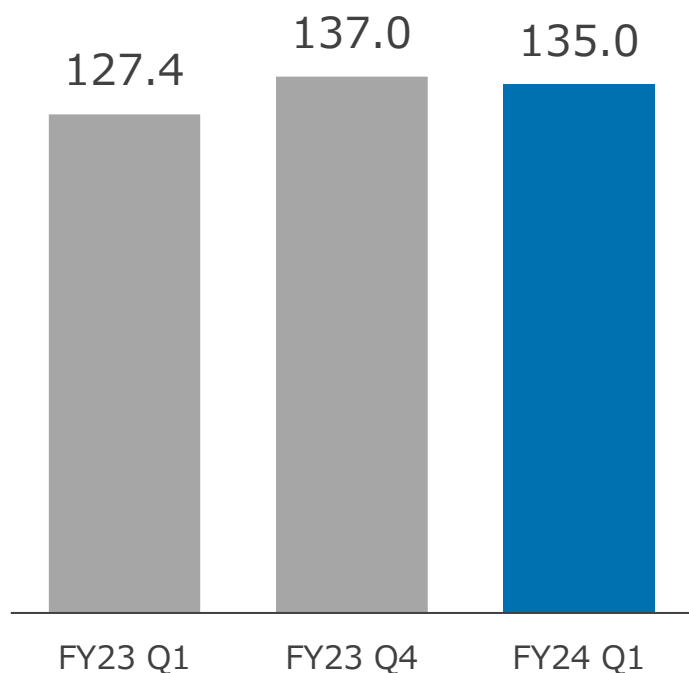


YoY +22% (CC +20%)

# ライフケア事業概況

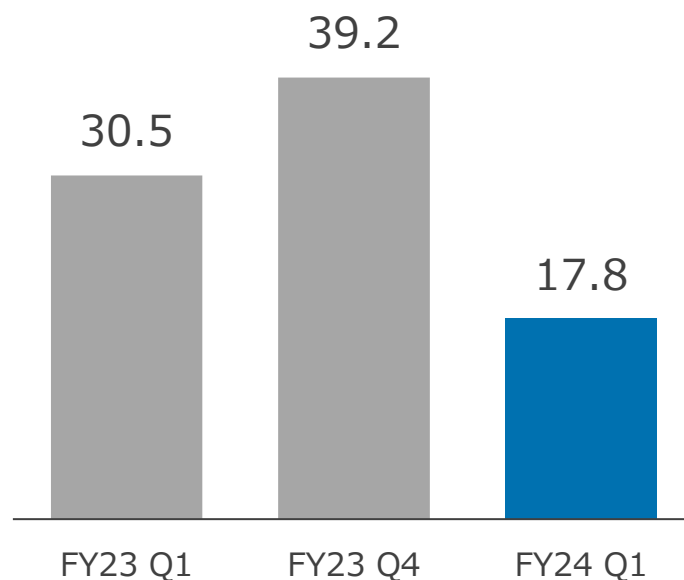
- 複数の製品がシステム障害の影響を受けたものの、売上リカバリーに向けた積極的な販促活動をおこなったことで、為替影響込みでは増収を確保した。
- リカバリーのための取り組みの結果、利益については大幅減益となった。

売上収益 (十億円)



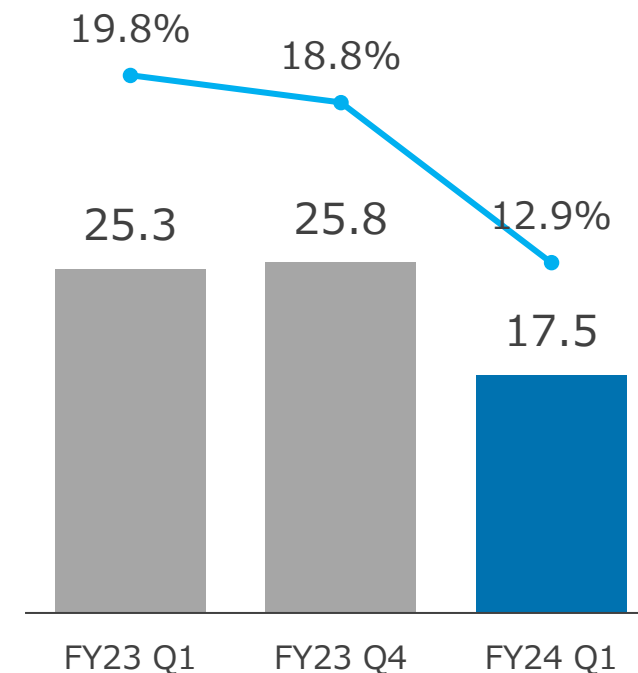
YoY +6% (CC -2%)

税前利益 (十億円)



YoY -42% (CC -44%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY -31% (CC -34%)

# ライフケア事業 製品別概況：メガネレンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

**+8%**

**-2%**

## 当四半期の状況

- 地域によって濃淡があるものの、グローバルでシステム障害が事業活動に影響
- 積極的な販促活動により、売上は徐々に回復、為替込みではプラス成長となった

## 今後の課題/展望

- Q2以降、売上については成長軌道に戻る見込み
- 小児から老眼向けまで、さまざまなライフステージの需要に対応した製品ポートフォリオの構築



# ライフケア事業 製品別概況：コンタクトレンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+6%

+6%

## 当四半期の状況

- オンライン販売とPB製品売上が引き続き好調、安定的な成長を達成した
- 4月に2 weekのPB新製品hoyaONE delightを発売

## 今後の課題/展望

- PB製品のポートフォリオの継続的な拡充
- 新規出店、オンライン強化、製品ミックス改善などで市場成長（2%）を上回る成長を目指す



# ライフケア事業 製品別概況：内視鏡

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

**-2%**

**-12%**

## 当四半期の状況

- 中国が引き続き反汚職運動の影響で低調
- 米国市場にてAI医療機器メーカーのMAGENTIQ-EYEとAI分野での協業を発表

## 今後の課題/展望

- 米国事業の構造改革の完遂、中国事業の販売体制のテコ入れ実施
- 継続的に製品ポートフォリオを拡充





# ライフケア事業 製品別概況：眼内レンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

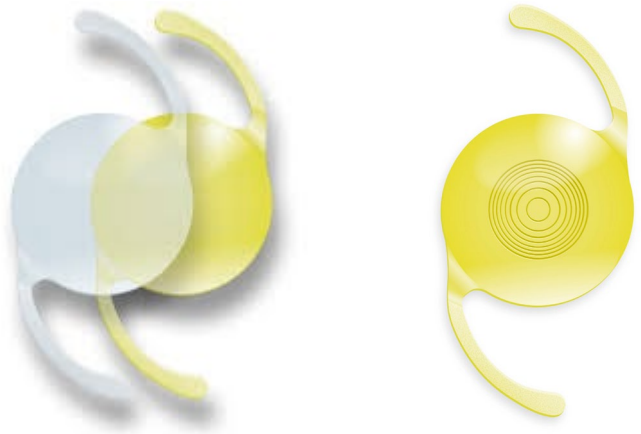
売上成長率

**+8%**

**+1%**

## 当四半期の状況

- 中国の集中購買制度やシステム障害が影響も、積極的な販売促進活動により増収を確保



## 今後の課題/展望

- 中国現地生産に向けた準備を推進
- 次世代製品を着実にローンチ



\*本年度より眼科手術用機器の売上を除く眼内レンズのみの成長率を記載

# ライフケア事業 製品別概況：人工骨ほか

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

**+5%**

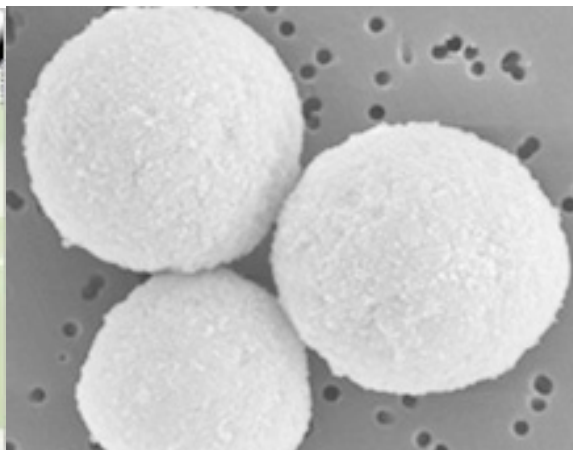
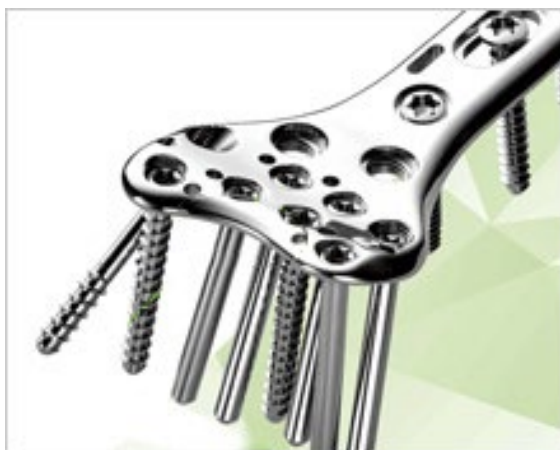
**-2%**

## 当四半期の状況

- 内視鏡洗浄機の販売が好調だったものの、人工骨が顧客の在庫調整やシステム障害の影響を受け、CCベースで微減収となった

## 今後の課題/展望

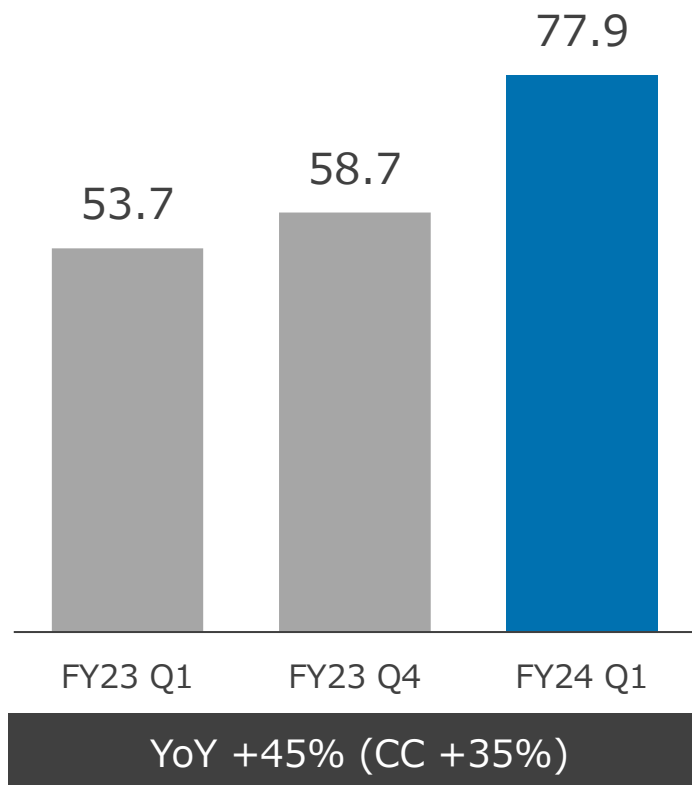
- 各製品における新製品の着実なローンチ



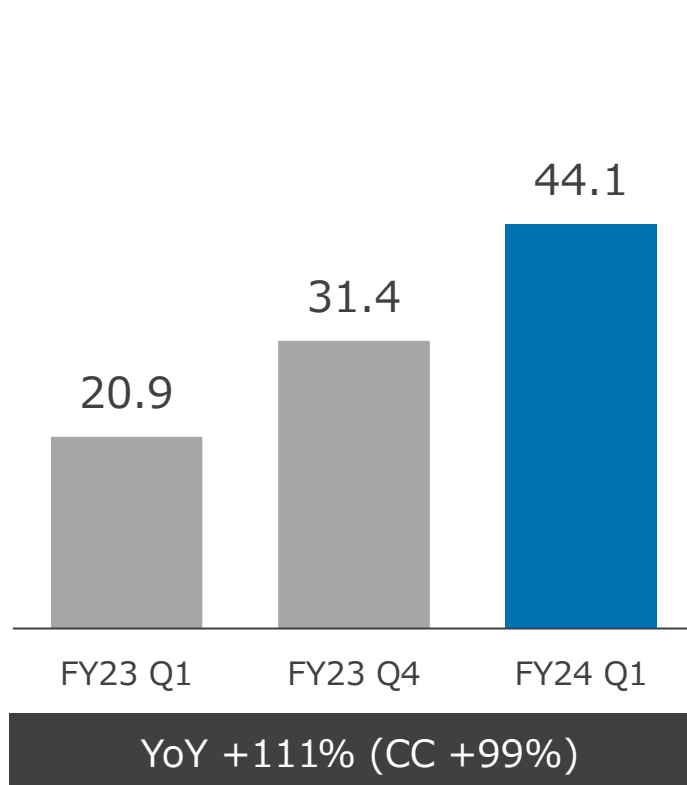
# 情報・通信事業概況

- 前年同期に在庫調整の影響を受けていたHDD基板とEUV blanksが反動増となり、また映像関連製品の好調が継続したことにより、情報・通信事業は2桁の大幅増収となった。
- 売上が想定以上に伸長したことや、製品ミックスの変化等により、利益率が一時的に通常より高い水準となった。

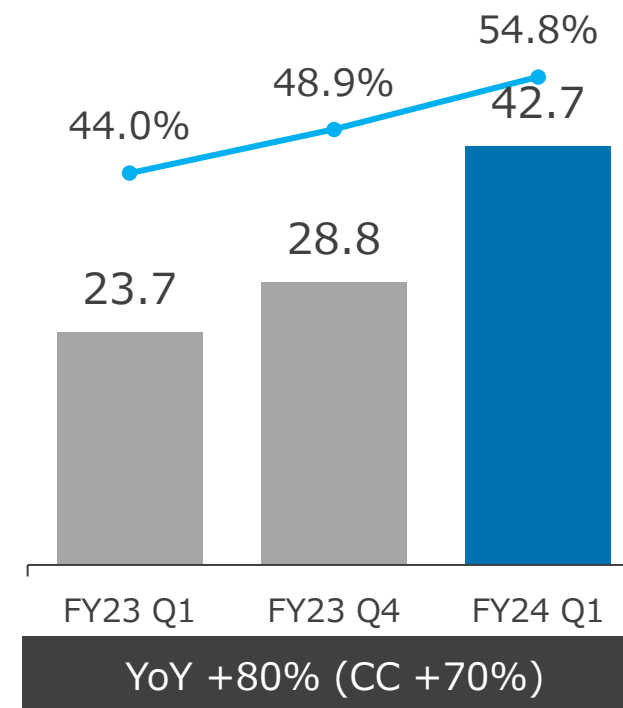
売上収益 (十億円)



税前利益 (十億円)



Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



# 情報・通信事業 製品別概況 : LSI

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

**+50%**

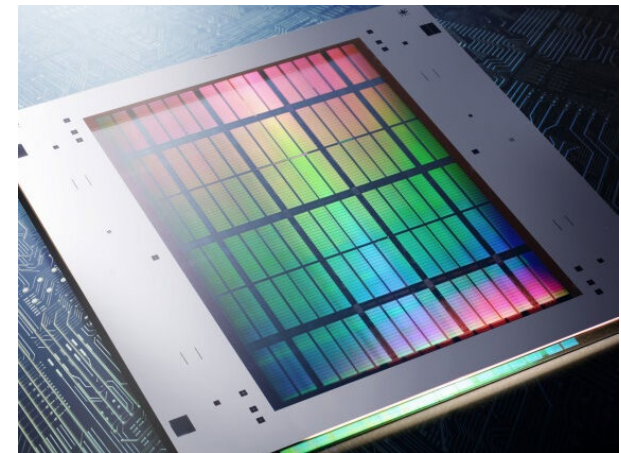
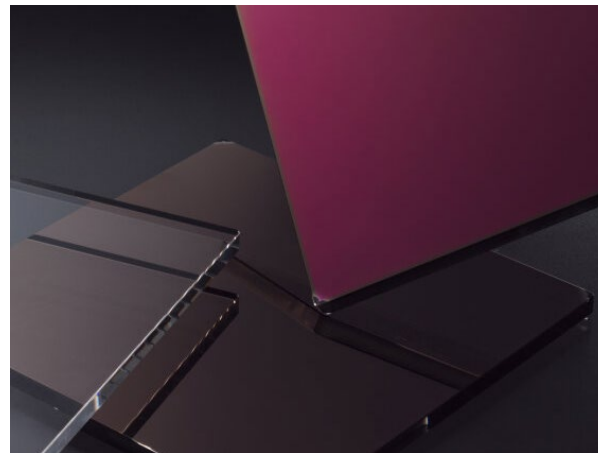
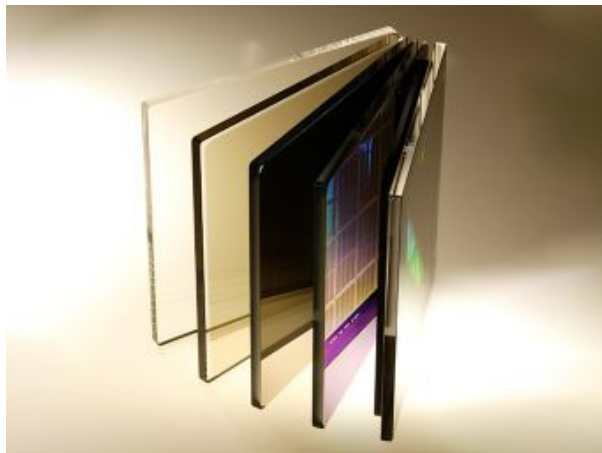
**+45%**

## 当四半期の状況

- 前年の在庫調整からの反動でEUVブランクス需要が大幅に増加
- 3nm世代のテープアウト本格化や、AI関連のASIC/HBMの研究開発活発化が貢献していると推測

## 今後の課題/展望

- EUVブランクス需要は四半期ごとに多少上下しつつも、高い水準が継続する見込み
- PSMの販売強化、先端ノードの認定獲得活動を推進



# 情報・通信事業 製品別概況 : FPD

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

**-15%**

**-17%**

## 当四半期の状況

- 台湾での地震を受け、マスク描画機の稼働時間が減少したことや、システム障害の影響により減収となった



## 今後の課題/展望

- Q2以降、供給体制の安定化を見込む
- 下期より中国・重慶の工場を徐々に立ち上げていく予定





# 情報・通信事業 製品別概況 : HDD基板

Reported Basis

Constant Currency Basis

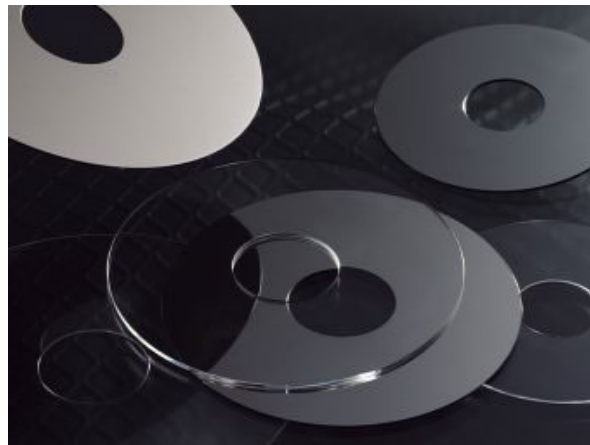
売上成長率

**+73%**

**+53%**

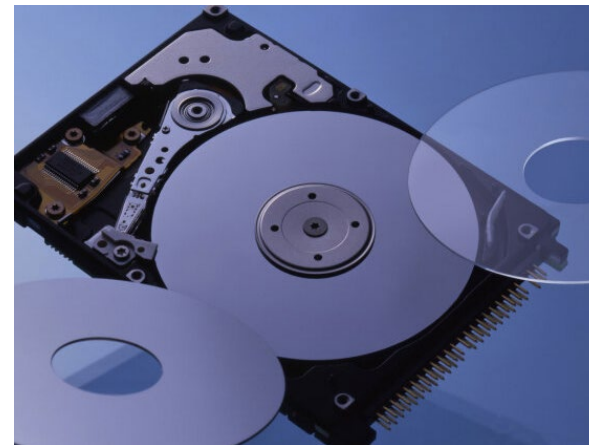
## 当四半期の状況

- 大幅な在庫調整があった前年からの反動、従来型サーバーとAI関連双方のストレージ需要増を背景に、3.5”の需要は以前のピーク（FY21）に迫る水準に



## 今後の課題/展望

- 季節性等により上下はありつつも、高水準の需要が継続する見込み
- Q4からラオス工場の稼働再開を決定。稼働再開に向けた準備を開始



# 情報・通信事業 製品別概況：映像

Reported Basis

Constant Currency Basis

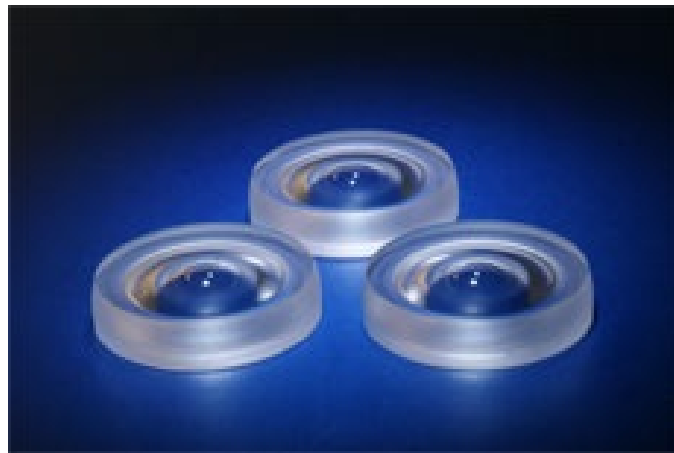
売上成長率

**+32%**

**+23%**

## 当四半期の状況

- ミラーレスカメラ向け交換レンズや車載向け光学製品の販売好調が継続



## 今後の課題/展望

- 既存市場でのシェア拡大と新規事業機会探索
- 市場動向に左右されない収益基盤の構築

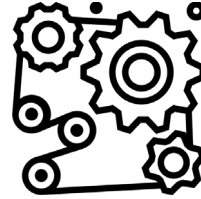


# 貸借対照表/キャッシュフロー関連



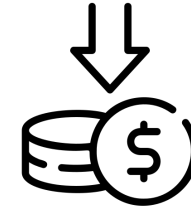
## キャッシュ/株主還元

- 500億円の自社株買いが進行中。7月末現在、90%取得完了
- 今後も投資機会とのバランスを見ながら、機動的な株主還元をおこなっていく



## 設備投資\*

- Q1実績: 114億円 (YoY +41億円)
- FY24の年間設備投資予想はFPDの支払タイミング等の見直しにより550億円から600億円前後に目線を引き上げ



## 減価償却

- Q1実績: 117億円 (YoY -8億円)
- FY24は年間で500億円前後を見込む

\*CFベース。有形固定資産の取得



## 02. FY24 Q2&H1 業績予想

# 業績予想

業績予想の前提（QoQベースの説明）

- ・ ライフケア事業は、システム障害の影響からの回復が進むものの、収益性は依然前年同期に届かない水準
- ・ 情報・通信事業は売上がQ1と同水準、通常より高くなっていた収益性については、徐々にもとの水準に戻っていく想定
- ・ 為替差損益はニュートラル（=0）の前提

(十億円)	Q2 FY23	Q2 FY24	YoY	QoQ
売上収益	188.7	216.2	+15%	+1%
税引前四半期利益	63.6	65.8	+4%	+3%

為替前提 USD=150円、EUR=165円

(億円)	H1 FY23	H1 FY24	YoY
売上収益	371.0	430.0	+16%
税引前利益	114.8	130.0	+13%

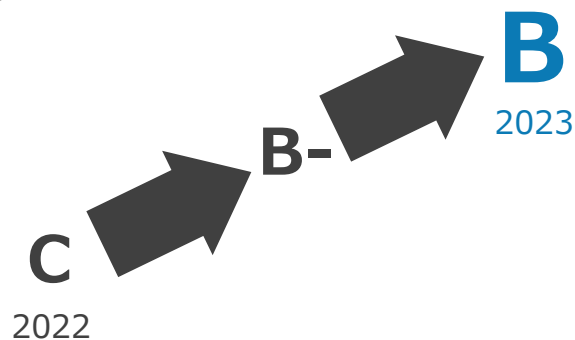
## 03. ESGアップデート

# Environmental (環境)

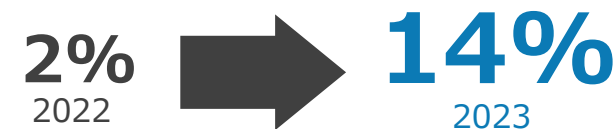
- 2回目となるTCFD開示を実施。映像事業をシナリオ分析に追加したことで、全社CO2排出量の約9割をカバー
- CO2スコープ3排出量の算出作業を推進。近日の部分的な開示を予定
- RE100に加盟。生産拠点を中心に再エネ導入を推進
- 水使用量（取水量）原単位の削減目標を設定。2030年までに生産数あたりの取水量の16%削減を目指す\*



CDPのスコアが2ランクアップ



使用電力における再エネ比率が大幅に向上



2040年の再エネ100%を目指し、取り組みを加速

\*基準年度2021年。製造製品が異なる事業を合算するため社内で設定した換算方式での生産数。取水量の総量は基準年レベルを上回らないように取り組む。

# Social (社会)

## 従業員エンゲージメント サーベイ

従業員エンゲージメントサーベイを定期的 to 実施。現在、4回目の調査を実施中。過去3回の調査結果から「タレントマネジメント」「キャリア開発」に焦点を当てており、2022年度よりグローバル共通の従業員評価制度の運用を開始

## ESGアワード を開催

事業の垣根を越えて知見をHOYAグループ内で共有しESG活動をさらに前進させる目的で、社内のESG活動を称える社内表彰制度「ESGアワード」を新設。ESG活動を奨励する表彰制度を通して従業員のモチベーションやエンゲージメントの向上を図っている

## サプライヤー行動基準 をアップデート

2018年にサプライヤー行動基準を策定以来、サプライヤーに対して遵守の働きかけと署名を推進。今般の各国際規範に則った形で、人権・環境課題への取り組みの明確化、倫理と企業ガバナンス、製品の品質安全、情報セキュリティ、マネジメントシステムに関する遵守事項を追加。年度内にサプライヤーへの配布を開始予定



# Governance (ガバナンス)

- 執行役に対する中長期インセンティブであるパフォーマンス・シェア・ユニット（業績連動型株式報酬制度）において、2023年6月に同制度の評価に定めるESG指標のウェイトを10%から25%に引き上げ、ESG推進の動機付けを強化
- 本年6月に定めたESG指標については、先般のシステム障害を受け新たに「ITガバナンスの整備」を中核目標としたほか、「経営のダイバーシティの推進」「社員の学びの機会の拡充」を目標とした

## 財務指標

75%

- 売上収益
- EPS
- ROE

## ESG指標

25%

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| • IT ガバナンスの整備   | 50% |
| • 経営のダイバーシティの推進 | 30% |
| • 社員の学びの機会の拡充   | 20% |

# 本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2024年4月～2025年3月の会計期間を2025年3月期もしくはFY24と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。  
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<https://www.hoya.com/investor/kessan/>

**Innovating For a Better Tomorrow**

**HOYA**